



もと は し つ う し ん 本橋通信

第20号
2022年4月

本橋Fαオフィス 電話:090-7909-2111/メール:rmotohashi0419@gmail.com

★★★この本橋通信は、私とご縁のあった方に差し上げている個人通信です★★★

★報われない努力と報われた？努力★

皆さまこんにちは。本橋通信第20号をお届けいたします。今月もどうぞ最後までお付き合いください。先般の北京オリンピックでのフィギアスケートの羽生結弦選手が涙を堪え清々しく放った言葉…「報われない努力だったかもしれないけど、一生懸命頑張りました!」には、私も目頭が熱くなりました。どんな事でも最後までやりきる事は、必ず次に繋がるに違いありません。娘も何とか希望する公立高校に合格できました。今年は応募倍率がとても高く、本人も不安そうでしたが、最後までやり切った結果にひと安心です。

ここで私の大学受験のとおき小噺を。高校時代ノー勉強小僧だった私は浪人生となり、少し心を入れ替えて、二度目の大学入試にチャレンジします。第一志望W大学は試験日・合格発表とも終盤戦でしたので、それまでに合格済の大学には入学金を前納しておかなければならないシステムです。確かW大学の合格発表日がR大学の入学金支払い期限日でもあり、私は合格発表をこの目で確認しに行きました。(今のようなWEBで瞬時ではないのです…) 試験の出来はイマイチで自信もなかった為、当然合格発表掲示板には私の番号はありません?でした。公衆電話で当時パート中の母に電話し、急いで銀行でR大学への振込を済ませて貰いました。自分の希望100%ではないけど、「1年間の努力は報われた～」と思い、帰宅すると夕方には合否通知届の郵便が届きます。もう結果解ってるのにと一応開封してみると、何と…私の



番号が載っているではあーりませんか! そして「サクラサク」の合格電報文も一緒です。この勘違いは本橋家史上最も笑える事件簿として、約30年経った今でも「あの時の無駄使いね～ちゃんと閻魔帳についてるから」と事あるごとに母にチクチク言われます(笑)。今や我が家の教育担当兼お財布担当大臣に就任し、権力を振りかざしている私ではありますが、あのオメデタイ大失敗談がなければ、今の自分はないのかもと思ったりします。

📖 IFA本橋の本棚より 📖

～インデックス至上主義を超える不朽の名作～

マーケットと投資の本質を伝える「投資哲学」の本として、世界中で読み継がれる超ロングセラー「敗者のゲーム」チャールズ・エリス著をご紹介します。私も改版の度に必ず目を通すのですが、長期投資における不滅の真理がココにはあります。人は変動するマーケットに一喜一憂し、じっくり考えて決めた投資計画を無視、高値で買って安値で売ってしまう… 実はFAの私でもそんな経験は一度や二度ではありません。これは株式市場に棲む気分屋な「ミスター・マーケット」が、刺激的な動き(株価の上下動)で投資家を翻弄するからです。そんな彼を無視し、黙々と財・サービスを生産し続け、感情の入る余地なく地に足のついた仕事で経済を動かす「ミスター・バリュー(株価を裏付ける企業活動)」に「資」を「投」じるのが投資観だと。これを長期で実現できるのが、投資のドリームチームたる「インデックス・ファンド」であるという結論です。実は資産運用の世界において、他の投資家を出し抜こうと尖ったプロ同士が凌ぎを削るほど、市場全体(インデックス)にパフォーマンスが収斂してゆくという、皮肉な宿命でもあります。その他「防御は最大の攻撃なり」、「運用につきまとう矛盾」、「収益率でなく市場リスクの管理が大切」など、理論的な観点や現実的な対応のイメージが湧き、示唆に富むパートが随所に。

★全体資産の整理・揺るぎない投資方針策定には、FAの活用が有効との一貫した論調に勇気づけられる私。



✍️ IFA(Indepent Financial Advisor)本橋の視点 ✍️

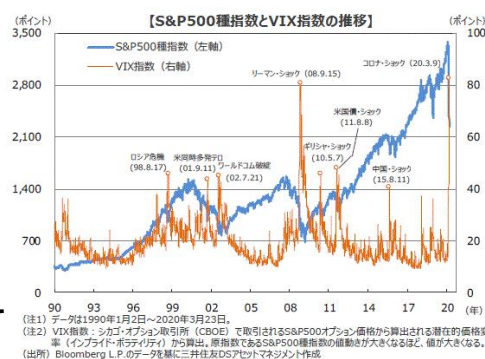
共同通信社さま経由にて、各地方新聞紙面「ライフセミナー」コーナーに掲載されましたコラム「恐怖指数って何？」…
マーケットは時に、投資家の不安心理によって大きく揺さぶられます。この不安レベルと株価の動きの理解は重要です！

Q. メディアで目にする「恐怖指数」ってどんな指数ですか？

橙: VIX指数、青: S&P500 ▶

A. 正式にはVIX指数(Volatility Index)と言われます。

シカゴ・オプション取引所が米国SP500種株価指数のオプション取引を対象として算出・公表。株式市場が今後1カ月でどの程度の変動を見込んでいるのかを示す指標です。



この指標が「恐怖指数」と言われる所以は、将来の株式市場に対する投資家心理を映しているからです。この数値が低い時にはマーケットの変動が小さく安定し、株式市場は概ね上昇する傾向にあります。平常時の数値は10～20のレンジが目安です。逆に、この数値が高い時は投資家の不安感も強く、マーケットの乱高下が予想されます。概ね恐怖指数が上昇する時には、株式市場は下落する傾向にあります。投資家に不安が募って来ると、数値は20～30のレンジへ、30を超えると胸がざわつく警戒水域、そして40を超えると…。平常心を忘れ、パニックに陥ります。

過去、幾度となく訪れた〇〇ショックや△△問題と呼ばれる株価暴落局面では、恐怖指数は70や80にも跳ね上がり、不安心理がピークに達した多くの投資家は、リスクを取り続けることが怖くなって、株式市場から逃げ出して行きました。しかしそうした際にも、恐怖指数を横目で見つつ、マーケットの乱高下は正しく怖がりステイ・マーケット(市場に居続ける)こそ、長期的に大切な投資行動かもしれません。(独立系ファイナンシャルアドバイザー 本橋竜一)

悲観的なニュースのヘッドラインやマーケットの暴落局面では、投資家のビビリ度(恐怖指数)は急上昇します。この局面は「いつかは必ず落ち着くはず」と冷静にやり過ごし、寧ろピンチをチャンスに変えるスマート投資家の心理で行きましょう！

◆編集後記◆ The pen is mightier than the sword. 私なりの「ペンは剣よりも強し」…

2/24に始まるロシア軍によるウクライナ侵攻を、恐怖と不安の中で見守っている方々も多くいるでしょう。勿論、私も気掛りでなりません。このような中で資産運用アドバイスなど不謹慎ではないかとすら感じる時もあります。平和ボケした日本にいて、ただ心配や同情するだけではなく、何か自分でも出来ることを行動したいと考え、私のペンだけで完結するコラム原稿料を、ウクライナの人々へ支援します。私が思う「ペンは剣よりも強し！」です。一日も早い平和な日々を願ってやみません…



◆今後本通信をご希望されない方は、お手数ですがお知らせ下さいますようお願い致します◆

【発行者プロフィール】

本橋 竜一(もとはし りゅういち)、1974年4月19日生まれ。東京郊外八王子の高尾在住。早稲田大学卒業後、横浜銀行で金融マンとして社会人をスタートしました。その後、国内(あおぞら銀行、みずほFG、三菱UFJ)、外資系(スイスUBS)金融機関にて、約15年間に渡ってプライベートバンキング(ご資産家のお客さま専用金融サービス)を経験し、ファイナンシャルアドバイザーとして独立開業。家族は妻、娘、息子の4人。
趣味はエンジョイゴルフ(スコア3桁でも緑の芝で気分爽快！)と読書(ジャンル無差別:乱読・積読?)
お客さまに対する想い:人生に専属のファイナンシャルアドバイザーがいる安心感を提供したい…



本橋FαオフィスWEBサイトは 本橋 IFA と検索！ <https://www.pfa-withyourlife.jp/>
皆さまからのご感想・ご要望をどんどんお寄せください。

➡ 本橋携帯:090-7909-2111 メール:information@pfa-withyourlife.jp